

《地方政治行政研究科》 ④「専修科目」・「指導教員」

課題領域	コード	指導教員	教育研究の内容
政治・政策の領域	601	教授 丹羽 文生	私の研究領域は政治学で、特に政治過程論を専門分野としている。特定の政治課題、あるいは政策課題が、どのようにして考えられ、検討、決定、実施されるのか。そのプロセスにおいて繰り広げられるアクター間のインターアクションを理論的、実証的に検証・分析するものである。フィールドワークによる調査研究を基本に、これまで主に戦後日本の政治・外交を中心テーマに扱ってきた。授業、演習では、今日に連なる戦後日本の政治・外交の展開過程を、可能な限りミクロな見地から検証・分析し、その成果と課題を考究していきたい。
近・現代日本政治学の領域	612	教授 澤田 次郎	私の主な研究テーマは、近代（江戸幕末～太平洋戦争期）において日本の世論形成に影響力のあった政治思想家（たとえば福沢諭吉や新渡戸稲造など）が海外諸国、国際関係についてどのような考えを有していたか、その対外政策論を考察することである。それを通じて、日本が太平洋戦争に傾斜していく過程を内面的にとらえることを目標にしている。授業では、その時代に書かれた文献、現在の優れた研究者たちの論稿を読みながら、単に過去を回顧するのではなく、今日の日本の政治外交の原型というべきものを、歴史的に分析していきたいと考えている。
近代立憲主義に立脚した憲法学の領域	613	教授 小竹 聡	憲法とは、何よりも、専断的な権力を制限して広く国民の権利を保障するという立憲主義の思想に基づくものであり、その最も重要なねらいは、権力を制限して人権を保障することにあるとする近代立憲主義の意義を再確認し、個人主義の理念に立脚した日本国憲法の創造的展開を目的として、人権の不可侵性の確保とそのための統治の仕組みを不断に追求しながら、比較憲法の視点に立って、現代立憲民主主義国家における立憲的諸制度の構築のために必要な、公法学上の課題の検討を行う。
政治コミュニケーションの領域	615	教授 岡田 陽介	私の主たる研究テーマは「政治コミュニケーション」であり、特に、政治家の声の低さが印象形成に与える効果を中心に検討を行っている。有権者は政治家から提供される様々な情報をもとに投票の意思決定を行っている。政治家が提供する情報には言語情報や非言語情報があるが、非言語情報としての声もその要因となりうる。授業では政治コミュニケーションに関連する論文を用いて、世論調査データの分析方法や心理学実験を用いた分析方法を学ぶとともに有権者と政治家のコミュニケーションのあり方を検討する。

アカウンタビリティの領域	616	教授 益田 直子	私の専門領域は行政学であり、特に評価研究を研究領域としている。行政活動の評価の視点から観察することにより、行政機関による学習と行政活動の改善がいかにして可能か、国会や国民に対するアカウンタビリティの実現がいかにして可能か、について研究している。具体的には、日米を中心とした政策評価制度、最高会計検査機関、国会の行政監視機能、評価の活用に係る理論分析等を行った。授業では、行政理論、実証研究の実例、社会科学の方法論等を扱っており、演習ではそれらの知識を前提に指導を行う。
戦後メディア文化のオーディエンスを対象とした社会学の領域	617	准教授 池上 賢	教育研究の内容：私の専門はメディア社会学と質的社会調査である。主なテーマは、戦後日本におけるメディア文化、特にポピュラーカルチャーの経験史と、人々のアイデンティティとの関係である。ポピュラーカルチャーは、娯楽にとどまらず、社会におけるイデオロギーや人々のアイデンティティ、そして「クールジャパン」をめぐる議論に象徴されるように文化政策などの政治的文脈とも関連している。授業では、質的な社会調査やメディア理論に関する国内外の専門文献を講読し、関連する様々な現象を分析する能力を身に付けていく。

※講義内容については本学ホームページを参照ください。

※指導教員は変更になる場合があります。